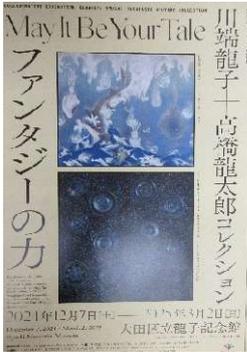


ファンタジーの力 川端龍子＋高橋龍太郎コレクション

大田区立龍子記念館（中央4） 24. 12. 07～25. 03. 02



本展は、日本屈指のアートコレクターとして知られる精神科医「高橋龍太郎」氏のコレクションを、日本画家「川端龍子」（1885～1966）の作品と展示するコラボレーション企画展で、2021年開催に引き続きの開催である。

高橋医師は、1990年代後半頃から収集を始めた現代アートのコレクションは、現在「3,500点」を超え、「東京都現代美術館」において2024年に『日本現代美術私観：高橋龍太郎コレクション』として展覧会が開催されている。

今回のコラボレーション企画展では、「ファンタジー」をテーマに高橋氏が、「草間彌生」「奈良美智」「加藤泉」「丸山直文」「宮永愛子」ら20名を超えるアーティストの作品を「川端龍子」の作品とともに展示がされている。

さらに、新たな試みとしてブックディレクター「幅充孝」氏が、各章のテーマに沿って選書した本を展示室に設置し、来館者がアートと本をとおして想像扉を開くことができる構成とされている。

「川端龍子」や現代を生きるアーティストたちの作品が織りなす世界から鑑賞する来館者がそれぞれの「ファンタジーの力」を感じることができる。

川端龍子 《花摘雲》 1940年



構想の雄大さは現地を見て作成された「連作大陸策の最終の第4作としてエピローグ的に構成した作品」で、理想を象徴した「雲」を飛天にしたのは、北満の大草原で眺めた壮大雲のたたずまいによるとされている。



奈良美智 《Rainy Day》 丸山直文 《Island of Mirror》